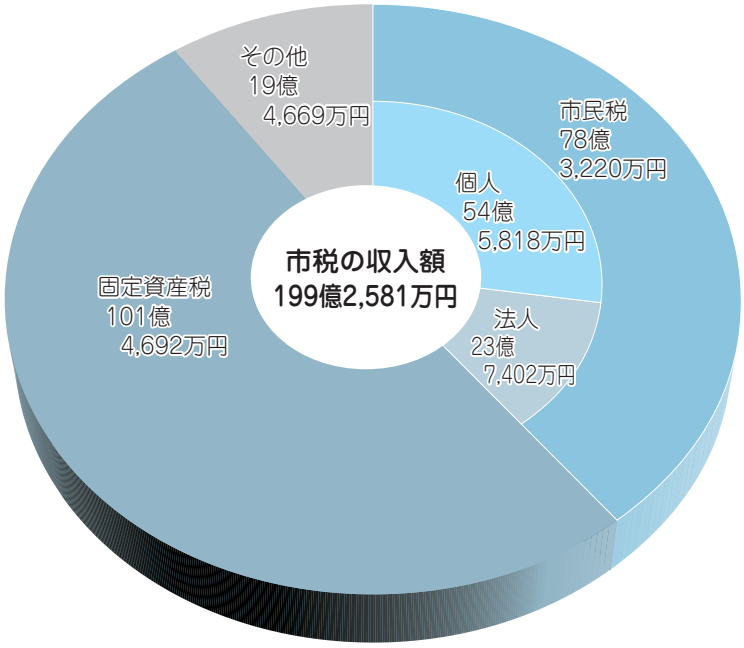
市税は歳入の三分の一

市税は、歳入の基本となるもので、歳入全体に占める割合が約三二・七％と最も高く、各分野にわたり事業を進めるうえで大切な財源です。

平成十五年度の市税による収入は、百九十九億二千五百八十一万円で、法人市民税、軽自動車税、市町村たばこ税が増加に転じたものの、個人市民税、固定資産税は減少し、市税全体として前年比三・七％の減（前年度、二百六億九千二百十三万円）となっています。（左表4）

市税による収入は、前年度も減少（〇・五％減）しており、厳しい状況が続いています。

平成15年度市税の内訳（表4）

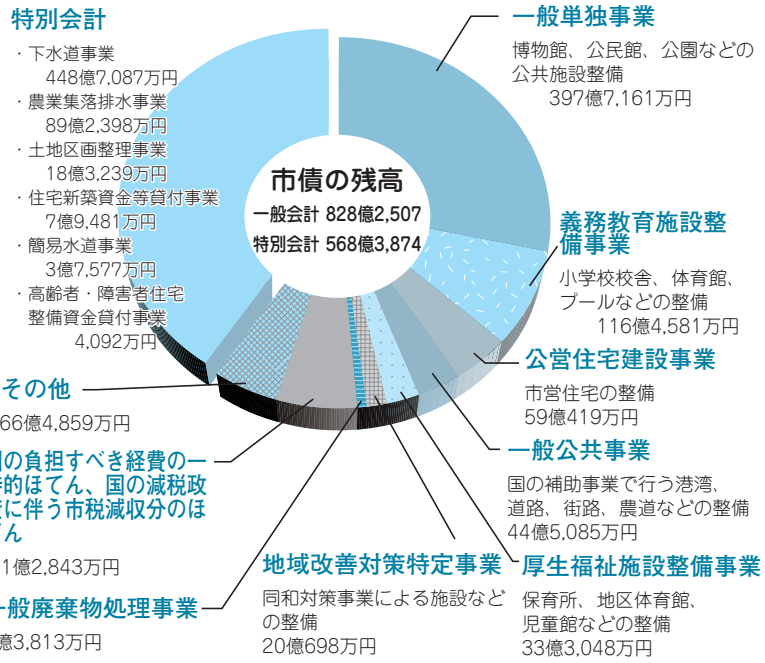


市債（借入金）残高の状況

市民生活の基盤となる道路や公園、学校、公民館などは将来にわたり利用していくものであるため、その整備にかかる費用の一部を市債で賄っています。市債残高は平成十五年度末現在、一般会計と特別会計をあわせて千三百九十六億六千三百八十一万円です。（右表5）

返済は、長期間にわたり行うこととなりますので、将来の財政負担が大きくならないよう慎重に事業を選び、計画的な借り入れを行い、健全財政に努めています。

平成15年度市債（借入金）残高の内訳（表5）



バランスシートとは

バランスシートは企業会計で用いられる貸借対照表のことで、年度末の時点で、どのくらいの財産と負債があるのかをわかりやすく表したものです。（次ページ表6）

鳥取市をはじめ地方公共団体では、先ほど紹介した決算報告のように一年間の予算執行状況や資金（現金）の流れに重点を置いて会計処理を行っています。この方法では、その年にどのような収入があり、それがどのように使われたのかはわかりますが、これまでつくられた道路や公園、学校などの資産や、その財源を調達するための負債（借金）、正味資産（資本）などについてはよくわかりません。

バランスシートでは、これまでどれくらいの資産を形成したのか、それが現在どのようになっているのか、またその資産はどういう財源でまかなっているのかなどが一目でわかるようになっています。